

令和元年度(2019年度)

管理事業名	文化振興事業				総合計画の体系	大綱 7 政策 2 施策 1	都市魅力 文化・スポーツに親しめるまちづくり 文化の振興
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 23	文化振興費
部局名	都市魅力部	予算執行所属	文化スポーツ推進室				
予算大事業名 一般事務事業 文化振興事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名						
事業の目的と概要 市民の文化活動の振興を図るため、幅広く文化事業を実施します。 《主な事業》 市民劇場等運営委託事業（音楽、演劇その他の幅広いジャンルから、優れた作品を安価に提供） ティーンズクラシックフェスティバル事業（才能ある将来性豊かな演奏家を発掘及び育成） 市民文化祭事業（市民に芸術文化活動と芸術鑑賞の機会を提供） 市展運営委託事業（創作意欲・技術の向上と身近な場での芸術鑑賞の機会を提供する公募美術展覧会を実施） 南山田市民ギャラリー事業（市民の芸術活動を発表する場を提供）							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	成果指標の定義
市民劇場等入場者数	人	2,157	1,310	1,742	入場者数
ティーンズクラシックフェスティバル入場者数	人	270	1,266	1,682	出演者を含む入場者数
市展出品点数	点	-	296	290	出品点数、平成29年度は開催せず
市民文化祭参加者数	人	21,436	28,400	22,360	出演者を含まない市民文化祭参加者数
南山田市民ギャラリー来館者数	人	3,825	5,064	4,584	来館者数
成果の説明	文化会館が改修のため休館していたため、令和元年7月以降の事業は他の市内公共施設等で実施しました。市民劇場は千里ニュータウンプラザ大ホールや浜屋敷で朗読、古典芸能、人形劇等の普及啓発事業を行い、千里金蘭大学佐藤記念講堂でクラシックコンサートを開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響等で市民劇場の公演のうち4公演を中止しました。ティーンズクラシックフェスティバルは吹田市民病院、ホテル、教会、小学校で若手音楽家によるミニコンサートを開催しました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	152	172	144	△28
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	4,695	6,622	3,421	△3,201
経常収入 小計(a)	4,847	6,794	3,565	△3,229
給与関係費	32,191	44,175	43,747	△428
物件費	24,158	28,248	24,258	△3,989
維持補修費	31	-	-	-
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	345	314	330	16
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	228	228	228	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	2,005	2,743	3,426	683
退職手当引当金繰入額	2,075	14,042	2,762	△11,280
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	61,034	89,750	74,752	△14,998
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△56,187	△82,956	△71,187	11,769
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別費用 特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△56,187	△82,956	△71,187	11,769
一般財源充当額	56,011	71,342	70,504	△838
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△176	△11,614	△683	10,931

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常収入その他	平成30年度仕分誤りによる、平成30年度修正再表示(2,407千円) 市民劇場等入場料収入 3,059千円、市展参加料収入 241千円、ティーンズクラシックフェスティバル参加料収入 114千円ほか
物件費	市民劇場等運営委託料 11,462千円、市民文化祭委託料 2,797千円ほか 主に市民劇場等運営委託事業で公演が中止になったことにより、委託料が前年と比べ減額

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	4,847	6,794	3,565	△3,229
行政サービス活動支出	60,859	78,136	74,069	△4,067
行政サービス活動収支差額	△56,011	△71,342	△70,504	838
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△56,011	△71,342	△70,504	838
一般財源充当額	56,011	71,342	70,504	△838
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	特徴的な事項
主に市民劇場等運営事業の公演中止のため、行政サービス活動収入及び行政サービス活動支出がともに前年と比較して減少しています。	

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
市民1人あたりのコスト	平成29年度	370,072 人	165 円	令和2年3月31日現在の吹田市人口で算出し、市民1人あたり200円のコストがかかっています。
	平成30年度	371,030 人	242 円	
	令和元年度	373,978 人	200 円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	2,743	3,426	683
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	2,743	3,426	683
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	7,632	7,404	△228	固定負債	32,350	32,122	△228
土地	-	-	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	7,632	7,404	△228	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	32,350	32,122	△228
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	76	76	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	35,092	35,547	455
土地	-	-	-	純資産	△21,885	△22,568	△683
建物・工作物	-	-	-	重要物品	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	図書館資料	-	-	-
重要物品	5,500	5,500	-	投資その他の資産	-	-	-
図書館資料	-	-	-	出資金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
出資金	-	-	-	基金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
基金	-	-	-	その他債権	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	純資産の部合計	△21,885	△22,568	△683
その他債権	-	-	-	負債及び純資産の部合計	13,208	12,979	△228
資産の部合計	13,208	12,979	△228				

Ⅲ 財務構造分析

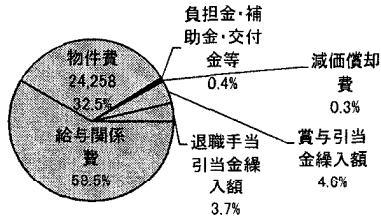
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用		非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事日数	実人数		
事業従事人数	5.16人	1人	239日	9人		49,935
給与関係費等	44,898千円	2,714千円	2,206千円	118千円		49,935
内、時間外勤務手当	1,710千円					

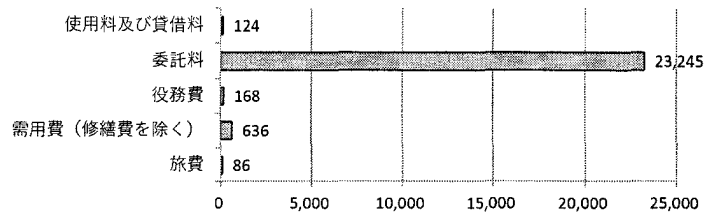
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	南山田市民ギャラリー(建物)減価償却により228千円の減
無形固定資産	電話加入権。増減なし。
重要物品	絵画1点。増減無し。

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	南山田市民ギャラリー
取得年月日	平成16年(2004年)7月(供用開始)
建物・工作物の取得価額	11,420千円
建物・工作物の減価償却累計額	4,016千円
利用料金収入	144千円

▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)			差 B-A
		平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	
施設維持補修費比率		0.3	-	-	-
施設老朽化比率		31.2	33.2	35.2	2.0
受益者負担比率		0.2	0.2	0.2	0.0
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		92.0	91.3	95.2	3.9
経常費用対公共資産比率		534.5	785.9	654.6	△131.3

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

IV 総括

▽分析結果の説明

経常費用のうち、物件費が32.5%、給与関係費が58.5%を占めています。物件費のうち95.8%が事業等の委託料が占めています。公募吹田市美術展覧会ほか文化会館の改修工事が始まるまで(4月～6月)に文化会館で開催した事業もありますが、市民劇場、ティーンズクラシック、市民文化祭の多くが事業の内容や規模を工夫して市内の他の公共施設で開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響等により市民劇場の4公演を中止しました。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

幅広く文化事業を実施し、市民が文化や芸術に触れる機会を提供しています。令和2年9月に本市の文化振興の拠点である文化会館がリニューアルオープンすることを機に劇場を体験し、参加者層を広げ、様々な人が交流する事業の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により新しい生活様式の中での文化事業の形を試行していく必要があります。